

海水養殖漁協とマイスティア、熊本高専

赤潮被害対策で連携協定

熊本県海水養殖漁業協同組合と半導体製造装置の生産を手がけるマイスティア、熊本高専の3者は31日、八代海で発生している赤潮被害対策に関する包括連携協定を結んだ。写真。被害を抑制するためのシステム開発に取り組む。

漁場の水質や気象情報を基に、人工知能（AI）が有害プランクトンの増殖傾向を感知して漁業者らに情報提供するシステムの開発や、顕微鏡で観測している有害プランクトンを画像処理AIで自動計測して作業の効率化を目指す。県もデ

ータ提供で協力する。県庁で締結式があり、県海水養殖漁協の深川英穂組合長は「八代海沿岸、天草地域を養殖業で稼げる地域にするため、頻発する赤潮被害を軽減したい」と述べた。県水産振興課によると、八代海では4種の有害プランクトンの警報が発令中。6月22日以降、養殖魚52万1221匹が死に、12億3453万円の被害が確認されている。（川野千尋）

